

A

高橋香樹会長書

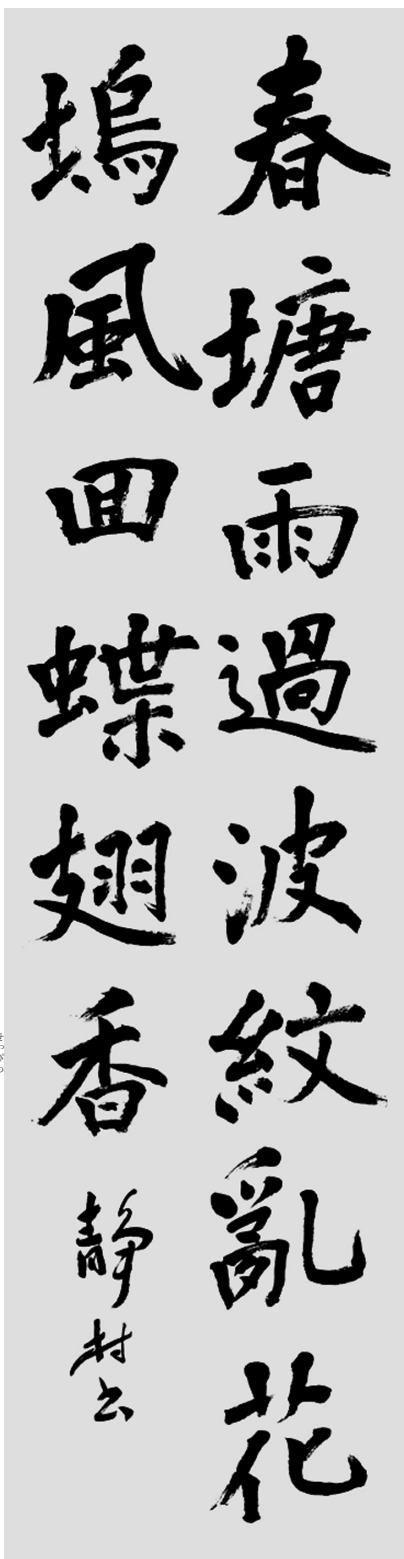
春塘雨過波紋亂 花塢風回蝶翅香 (袁宏道)
春塘雨過波紋亂れ、花塢風回り蝶翅香し。(袁宏道)



B

鈴木静村先生書

連綿線を多く使って作品をとの思いは常にありますが、仲々思うようにできません。連綿線は、右から左への線が多くなりますが、収筆で右から左に払う文字を上手く利用するのも一方法かと。しかし、連綿線を使いながら連綿線を感じさせないようにするのが理想。昇試のポイントとして書き込んで下さい。墨継ぎは「亂」と「蝶」。



塘 過 風 回 蝶 香 下部を内側に傾けると、全体が引き緊まり、充実感を与えます。「接筆」一般的には離すことによって、窮屈さをなくし、明るさを表出させます。この離し方は文字により幾分の違いがあります。乱 塢 香「啄」永字八法の七番目。左横から入り、ハネを利して強く弾き返す用筆。この入筆法が主点。
訳：春の池塘に雨降って波のあやは乱れ、花の咲く堤には風吹きまわって蝶の羽までが香ばしい。

予告 (四月二十二日締切)

春水満四澤

夏雲多奇峰

秋月揚明輝

冬嶺秀孤松

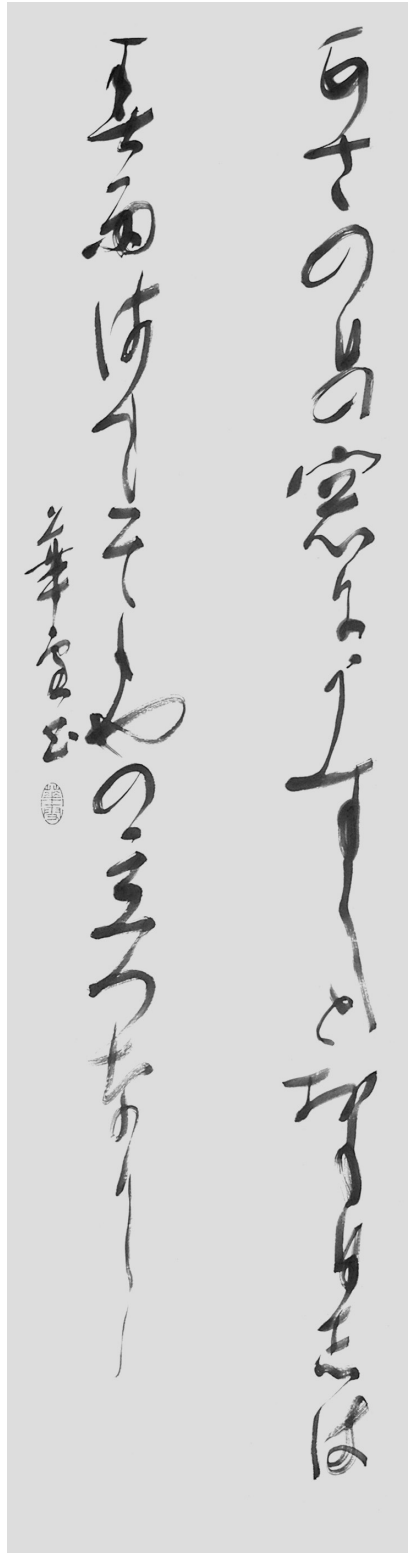
(陶淵明)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

A

平岡華雪先生書

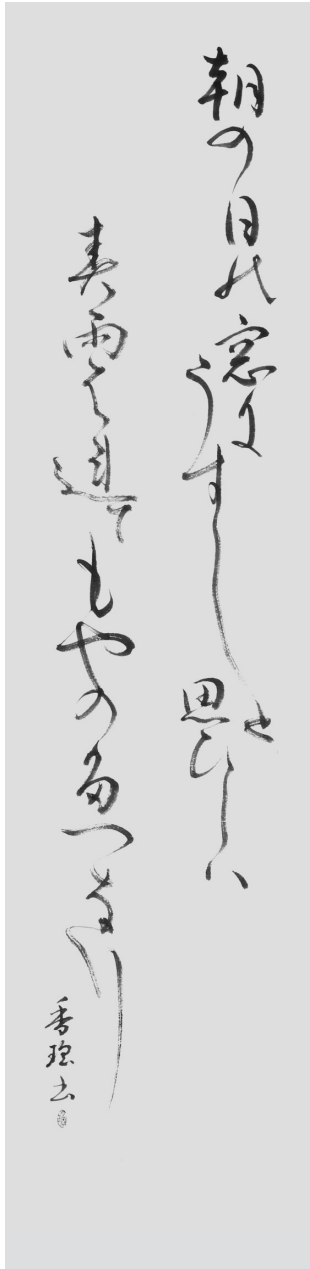
朝の日の窓にうすしと思ひしは春雨晴れて霽の立つなり(島木赤彦)
あさの日の窓^にうすしとおも^ひ日志^は春雨^は連^れてもやの立つなり



B

内藤香瑠先生書

朝の日能窓^の尔^にうすしと思ひし^は八春雨^者連^れてもやの多^たつ奈^なり



学び方

春雨後のもやの朝
左上と右下に広く余白を設けました。連綿も少なくし、変体仮名も多用されている易しい文字を使用。さわやかな「朝」の気分を出し、たく思いました。

島木赤彦(一八七六〜一九二六)
長野県上諏訪出身。伊藤左千夫に師事。
斎藤茂吉らと共に歌誌「アララギ」を編集、
主要同人となる。

作歌は写生道を強調、
東洋的な象徴主義を旨と
した。代表歌集は「水魚」
「大虚集」「柿蔭集」等。
「アララギ」は広く認め
られ、歌壇を制覇したと
言われた。また小説、散
文、紀行文、エッセイ等、
多くの作品を著している。

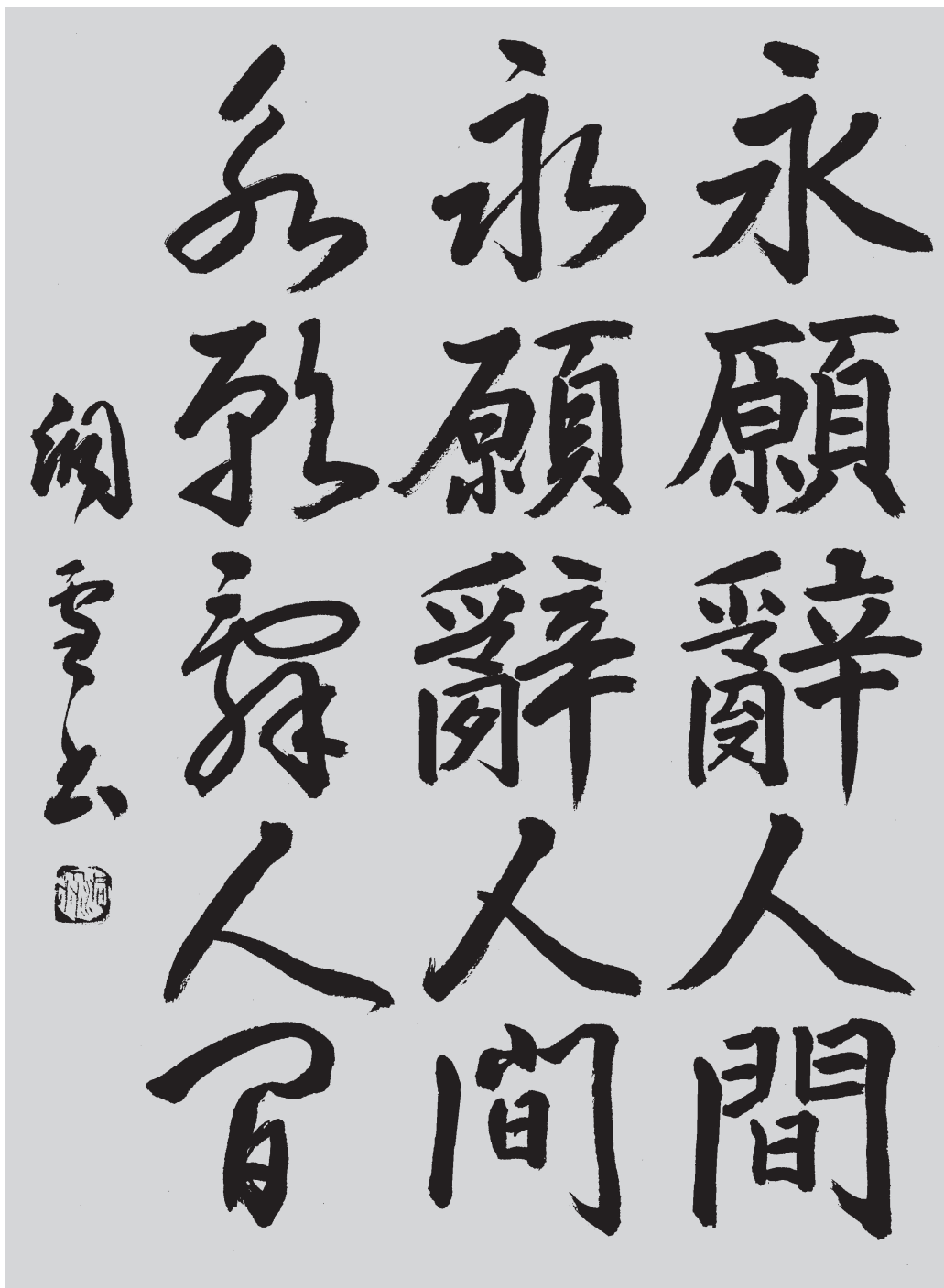
予告 (四月二十二日締切)

大空におほふばかりの袖も哉春咲く花を風にまかせじ (後撰和歌集)

◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

加藤洞雪先生書

永願辭人間(李白)
永く願う人間を辞するを

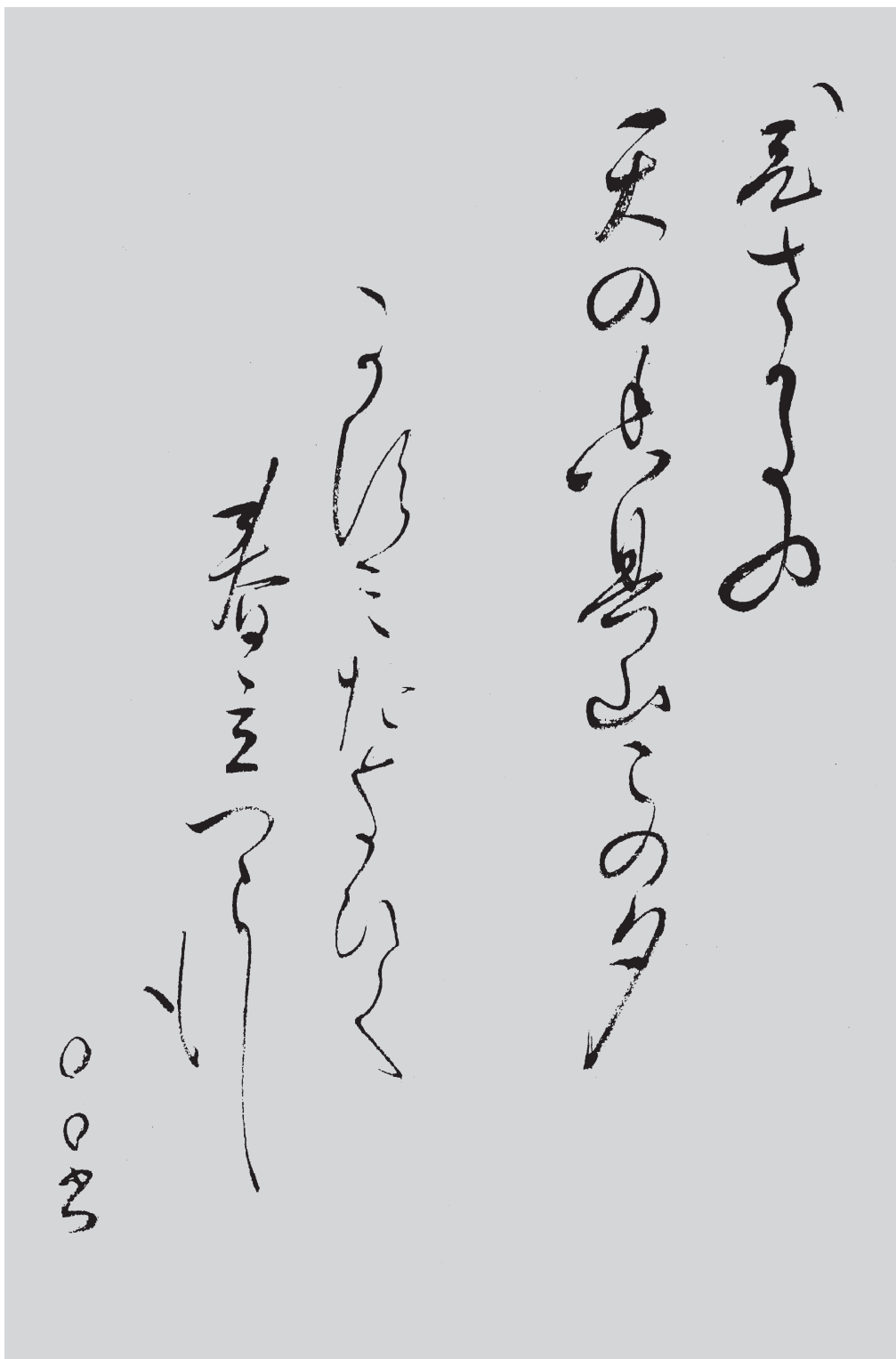


訳：俗世間を去ってしまいたいと、永く願いつづけるに違いない。

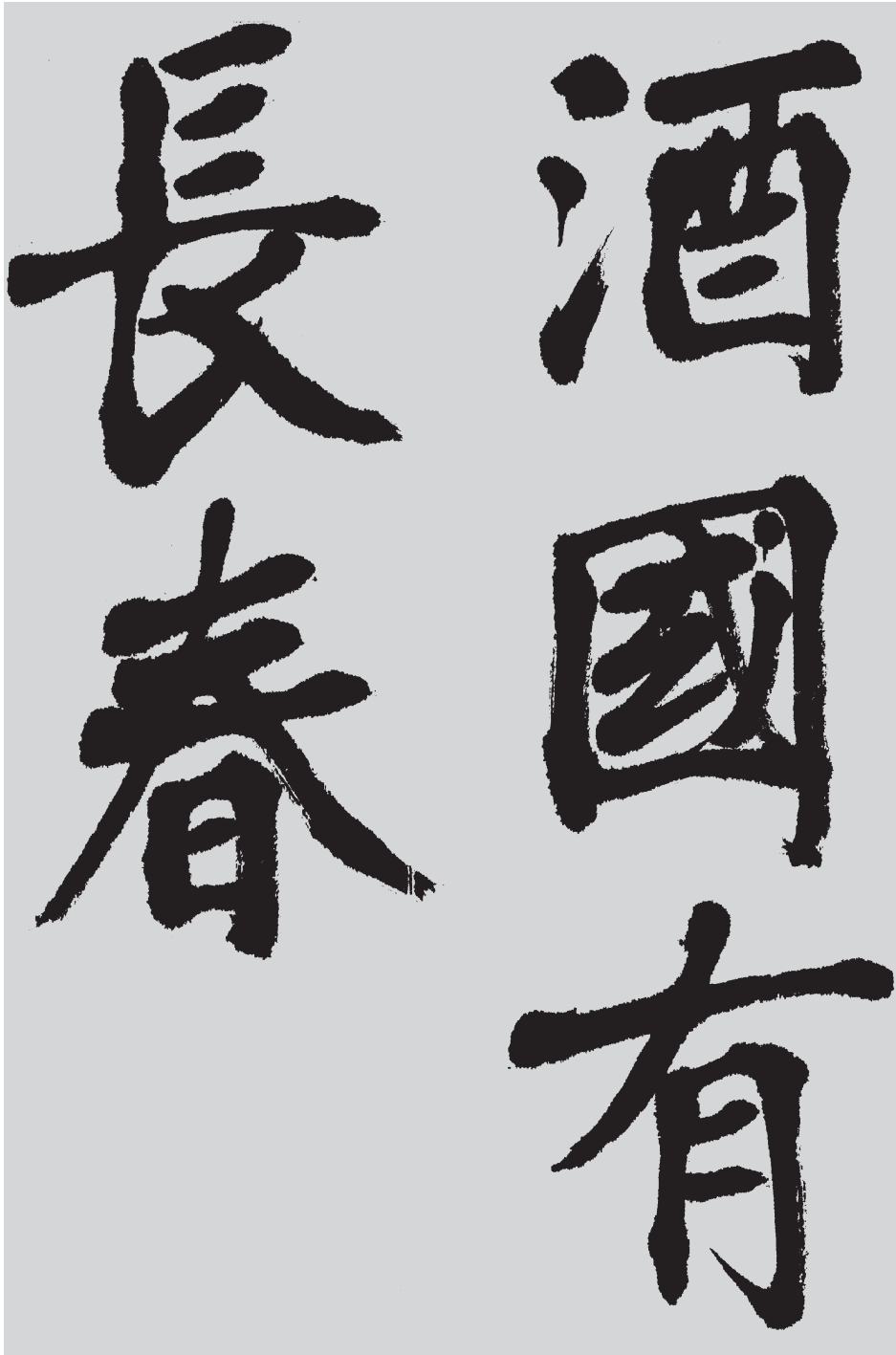
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

高塚竹堂先生書

ひさかたの天の香具山この夕霞^{ゆふべ}たなびく春立つらしも(万葉集 柿本人麿)



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。



平岡華雪先生書

硯田悪歳無く「酒国長春有り」(唐庚)

訳：同じ田といっても硯の田には饑饉はない。国にも種々あるが酒国は常春である。

へ「口」の形について

「酉、國、日」の「口」の形のとり方と

して、下に出し安定させます。

ただ、「口」の場合はちがいますので、
ご注意下さい。



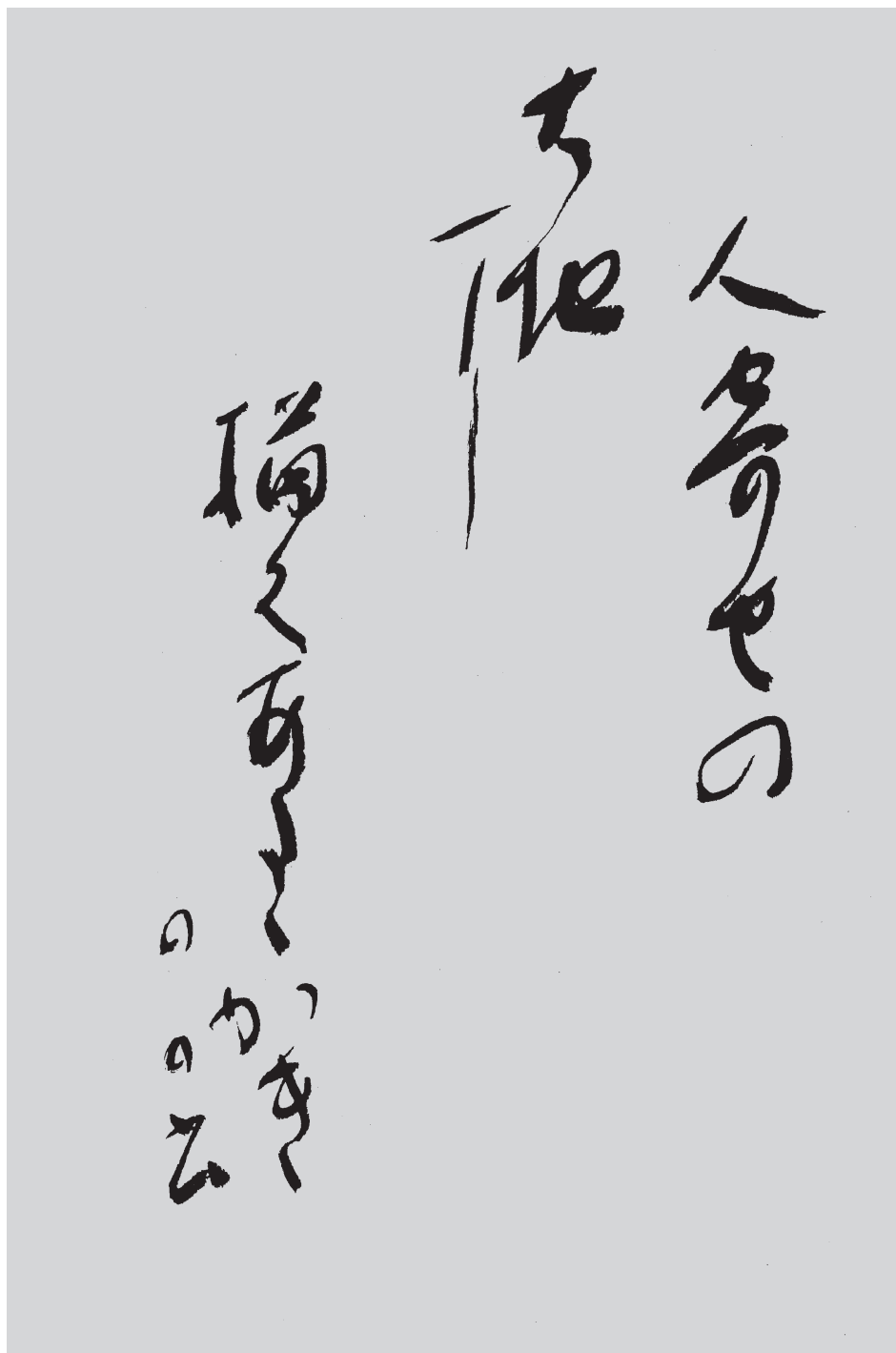
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

平岡華雪先生書

人寄せの大地に描く暖き(虚子)

人寄せの大地耳描久あ多ゝかき

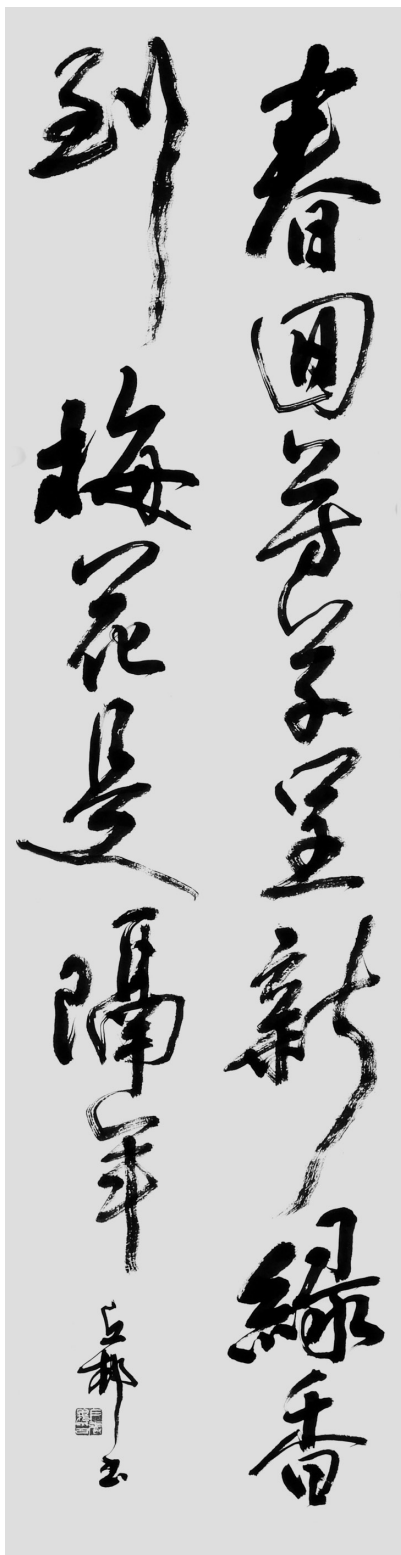
へ「間」の捉えについて
連綿の切れ目の間合いを知ることが、リズムを会得するステップ。「寄せ」の末筆で、筆を上げ、空画を経て「の」に入りますが、この寸刻の「間」が、流れの中で実感できるようになったら、シメたものです。他に、「大地」、「描く」、「あ多ゝ」の末筆から「間」に入ります。この「間」の捉えが解るようになればと思います。



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

戸張丘邨先生書

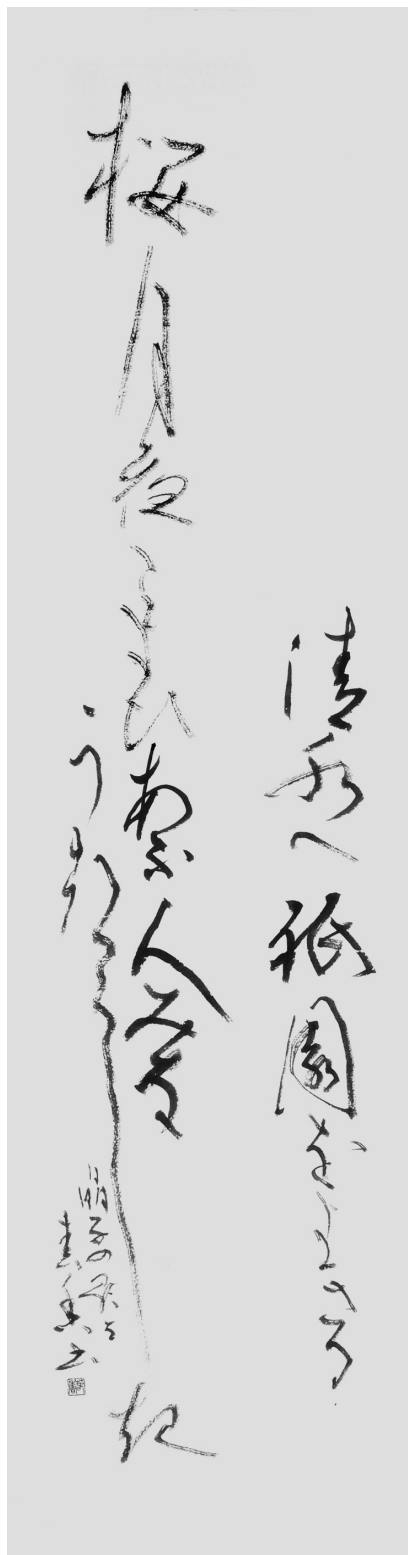
春回芳草呈新緑 香到梅花是隔年 (周世文)
 春回芳草呈新緑を呈し、香は到る梅花は隔年。



訳：又しても世は春となつて新緑の芳草が生じた。梅花は咲いてよき香りを放つのが一年ぶりである。

石原春香先生書

清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひ逢ふ人みなうつくしき (与謝野晶子)
 清水へ祇園をよぎる桜月夜こよひあふ人みなうつくし起



◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

水 貝 潮 華 先 生 書

林有鳴心鳥。園多奪目花。(間人蒨)
林に心に鳴く鳥有り、園に目を奪うの花多し。

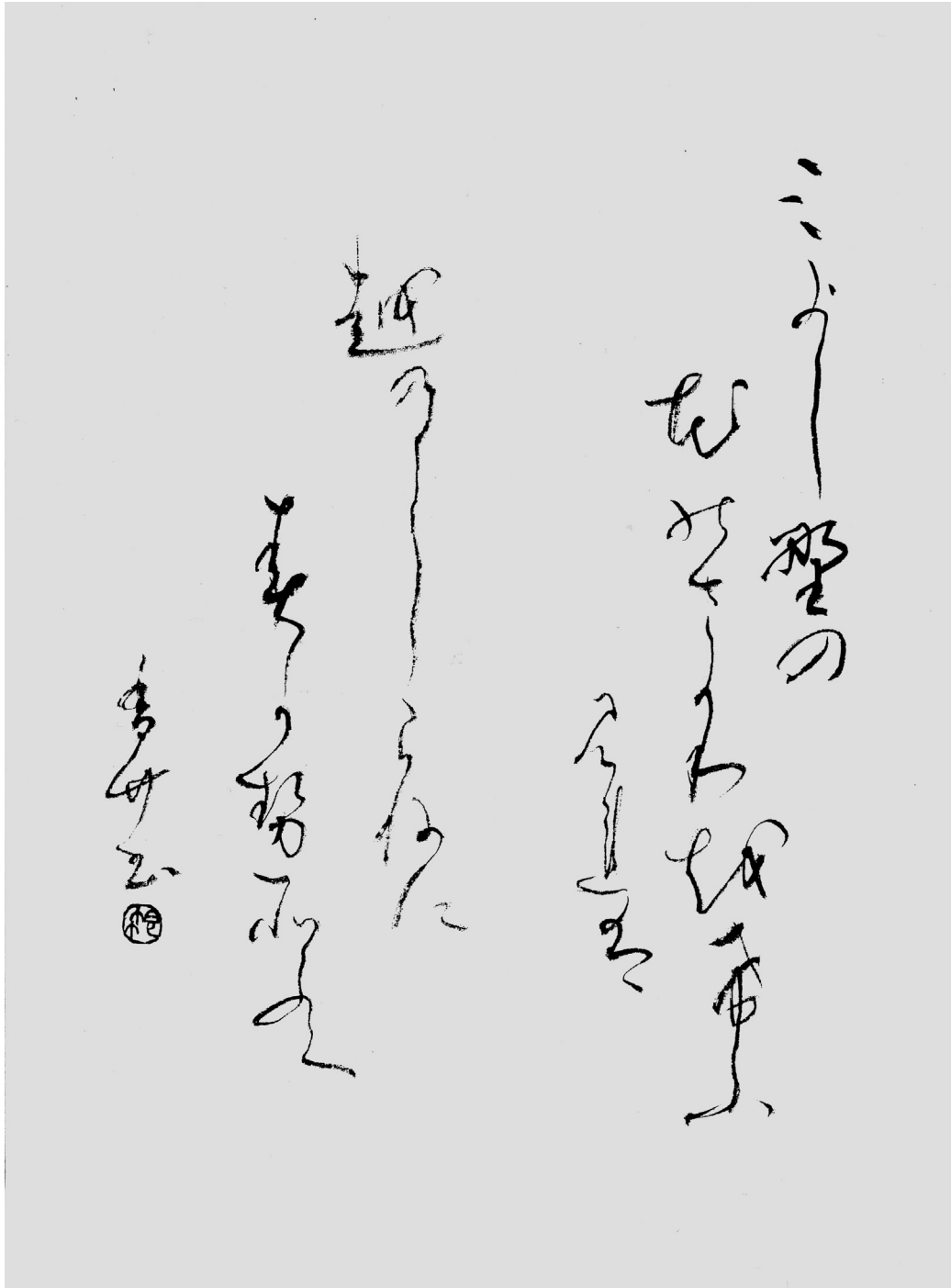


訳：山林には心に鳴く鳥があるかと思えば、園中には目もくらまなばかりに美しい花が咲いている。

◆注 意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

青柳香竹先生書

み吉野の花の盛りを今日見れば越の白根に春風ぞ吹く（千載和歌集 藤原俊成）
三よし野の花能さ可利越希ふ見連盤越乃しらねに春可勢所ふ久



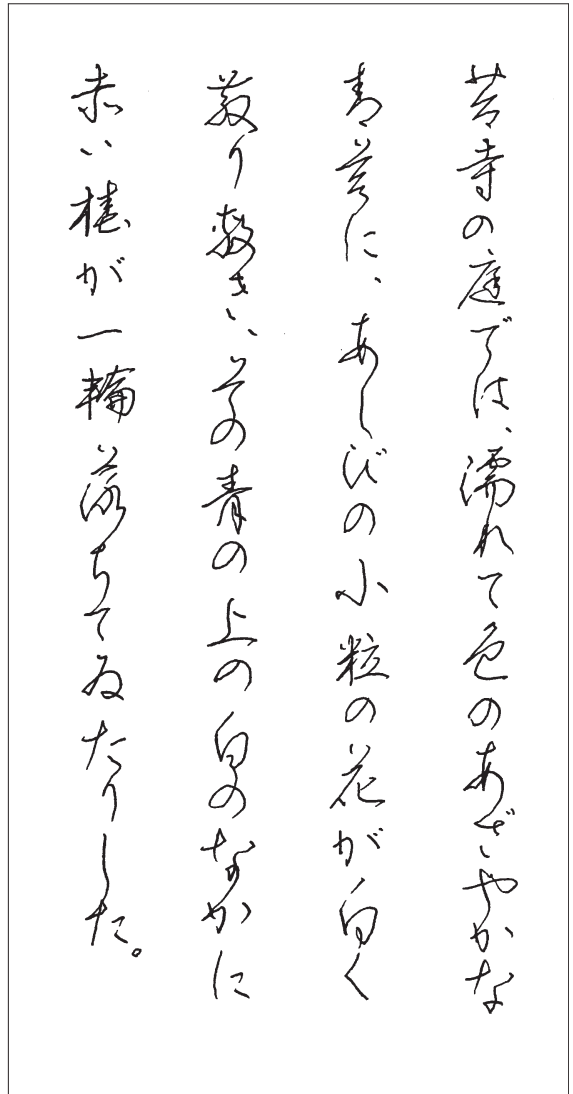
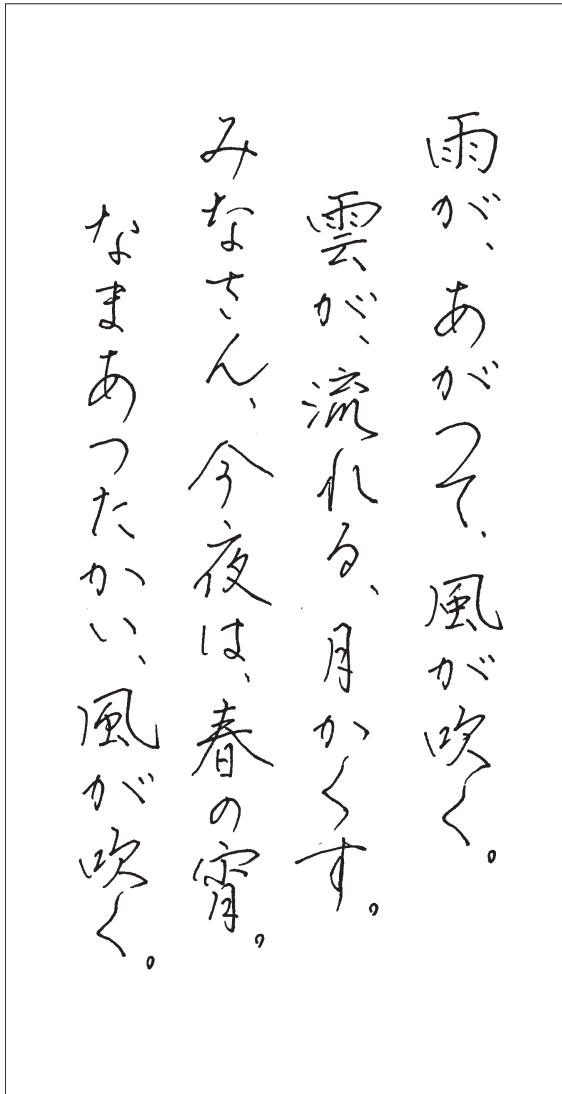
◆注意 裏表紙の昇試規定を参照のこと。

赤木典子先生書

川上香蓉先生書

課題 2 (初段階以下)

課題 1 (初段階以上)



課題 1 (初段階以上)

苔寺の庭では、濡れて色のあざやかな青苔に、あしびの小粒の花が白く散り敷き、その青の上の白のなかに赤い椿が一輪落ちてゐたりした。
「美しさと哀しみと」川端康成

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円

課題 2 (初段階以下)

雨が、あがつて、風が吹く。
雲が、流れる、月かくす。
みなさん、今夜は、春の宵。
なまあつたかい、風が吹く。

春宵感懐 中原中也